# キャリア教育による学力向上を目指し、アクティブラーニング・リーダーを養成

## 沖縄県教育委員会×オーシャン・トゥエンティワン

### キャリア教育の視点を踏まえ「確かな学力」の向上を目指す

教育現場では「学力向上」と「キャリア教育」は二項対立でとらえられがちだ。そんななかで、沖縄県教育委員会は、学力向上主要施策の柱の一つとして「キャリア教育の視点を踏まえた『確かな学力』の向上」を掲げている（図1）。その背景について、沖縄県教育庁県立学校教育課 指導主事の宮城竜幸氏はこう解説する。

「沖縄は高校卒業者の進路未決定率の高さやニート率の高さなどさまざまな課題を抱えています。求められているのは子どもたちを自立した社会人へと育てていくこと。そのためキャリア教育には県全体で力を入れて取り組んできました。2014年に国立教育政策研究所が、『充実した計画に基づいてキャリア教育をしている学校ほど学習意欲も向上する傾向がある』という調査結果を公表しましたが、沖縄県教育委員会でも『学校教育はすべてキャリア教育である』という考え方が以前から基本になっていました。学力向上という喫緊の課題に関しても、キャリア教育が重要なツールになると考えています」

その具体的な方法としてここに来て浮上してきたのがアクティブラーニングだ。キャリア教育コーディネーターの企画により、2013年に小林昭文先生を講師に招いた研修会を開催。これがきっかけで県内の高校教員からの関心が一気に高まった。

「アクティブラーニングは基礎的・汎用的能力の養成に十分資するもの。教育委員会としても学力向上につながるキャリア教育の一つとして注目しています。ただし、効果的な指導をするには相当の研究と実践が必要。人材をどう育成するかに関しては高い関心をもっています」（宮城氏）

こうした流れのなかで2014年、沖縄県教育委員会の後援で新たにスタートした事業が、県内の教員を対象にした「キャリア教育プロフェッショナル教員養成講座 アクティブラーニングリーダー・コース」（講師：小林昭文先生）だ。主催は地元の民間企業であるオーシャン・トゥエンティワン。代表取締役社長の翁長有希氏に講座立ち上げの背景を聞いた。

### 日々の授業で何をすればいいのかが課題に

「当社は、人の育成を通して沖縄の活性化に貢献することを目的とした会社です。企業向けの研修も手掛けていますが、若い人材を育てる必要性を感じ、2005年からキャリア教育をテーマとした教員研修、授業の企画、キャリア教育コーディネーターの育成などに取り組んできました。当初はキャリア教育についてほとんどの先生が知らない状況でしたが、2012～2013年にはある程度浸透し、周知の時期は終わったと感じていました。ただし、現場の先生方は『キャリア教育が何かはわかったが、日々の授業で何をやればいいのか？』という課題を抱えていました。私たちも何が提供できるのかと考えていたところ、アクティブラーニングが注目されるようになり、先生方に響きやすい実践的な手法だと考え、講座を企画したんです」

当時、教育委員会が前出の「キャリア教育の視点を踏まえた『確かな学力』の向上」という方針をすでに打ち出していた。イベント型、単発型の取り組みではなく、日々の授業で実践できるキャリア教育が求められていた状況も後押しになったという。

講座のプログラムは図2のとおり。全6回30時間をかけて、アクティブラーニングの手法、考え方を実践的にマスターする内容となっている。並行して職場での授業改善の実践が求められるほか、毎回のようにA4用紙3～4枚程度のレポート提出も課され、最終的には研究発表も行う。単発型の研修とは一線を画す中身の濃さで、

**図1：沖縄県の「学力向上主要施策」の3つの柱**

1. **キャリア教育の視点を踏まえた「確かな学力」の向上の推進**
   - 夢や希望を持たせ、学ぶ意欲の向上を図る
   - 学んだことを実生活に活用する力の育成を図る
2. **「わかる授業」の構築による「確かな学力」の向上の推進**
   - 教師一人ひとりが主体的に研修に参画できるシステムを構築する
   - 授業の充実のために教育課程の「量」や「質」の管理を行う
   - 各種調査を活用した授業づくりを行う
3. **学力向上マネジメントによる「目標管理型評価システム」の推進**
   - マネジメントサイクルを確立し、成果につながる取り組みを行う

有限会社オーシャン・トゥエンティワン
認定キャリア教育コーディネーター
**比嘉佳美氏**

有限会社オーシャン・トゥエンティワン
代表取締役社長
**翁長有希氏**

沖縄県教育庁
県立学校教育課
指導主事
**宮城竜幸氏**

「現場でアクティブラーニングを実践できるリーダーを育成する」というねらいが見てとれる。

## 毎年10～15人のリーダーを輩出し、AL普及を図る

「それは明確に意識しています。育成したいのは、アクティブラーニングの本質を理解して周りに伝えることができる先生。この講座を修了した先生が伝道師となり、それぞれの学校で、隣にいる先生に、教科に、学年にと波及させていくことでアクティブラーニングを定着させていきたい。毎年10人でも15人でもリーダーとなる先生を育てていけば、県全体の動きになっていくはず。決して一時的なブームで終わらせてはいけないと考えています」（翁長氏）

第1回の講座には県内の19人の先生が参加。多くが高校の先生で、30代の中堅層を中心に若手からベテランまで幅広い世代が集まった。担当教科もさまざま。ほとんどが自分の意思で参加しているという。

「受講者限定のチャットでやりとりをしたり、ほかの先生が実践例を講座仲間の先生が見学に行ったりと、先生同士の交流も生まれてきています。意欲が高い先生たちが結びつく場にもなっていますね」（オーシャン・トゥエンティワン／比嘉佳美氏）

参加した先生たちのレポートは最終的に論文の体裁にまとめて教育委員会や高校に提出する予定。実践事例や研究成果を文書のかたちで示すことで、アクティブラーニングへの理解を深めていきたいという。

ここで、冒頭で示した県の課題に立ち返ろう。アクティブラーニングは、今後、「学力向上」という結果に結びついていくのだろうか。翁長氏は次のように答えてくれた。

「学校の中で一人の先生が頑張るだけでは難しいでしょう。しかし、アクティブラーニングが学校全体に波及していけば必ず学力向上につながっていくと考えています。だからこそ、この講座を受講した先生方への期待は非常に大きいんです」

**図2：キャリア教育プロフェッショナル教員養成講座の内容**

アクティブラーニングリーダー・コース

| | テーマ | 内容 | 日程 | 実践課題 | レポート課題 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **オリエンテーション** | **◆オリエンテーション**<br>**◆基礎理解**<br>●アクティブラーニングについて<br>●アクティブラーニング授業体験 | 8月 | 10月までにできる範囲の実践を行う | ■受講理由<br>■達成したい目標<br>■第1回セミナーの気づき |
| 2 | **実践プラン作成** | **◆アクティブラーニング授業プラン作成の手法**<br>●アクションプランワークシートの活用による授業プラン作成<br>●授業観察視点の取得 | 9月 | 専用メールに実践の様子を報告 | ■GROWモデルの文章化<br>■実践の概要 |
| | **〈質問会議〉実践**<br>※希望者のみ | ★アクションラーニング（質問会議）<br>●アクションラーニングの理解と実践 | | | |
| 3 | **実践の振り返り** | **◆実践についての振り返り**<br>●フィードバックスクリプト<br>●質問のスキルの取得<br>●授業観察視点の実践・定着 | 10月 | | ■振り返りのプロセスについて<br>■振り返りの気づき<br>■今後の課題 |
| 4 | **教師介入法のスキル** | **◆アクティブラーニング授業における教師の役割（講義・実技）**<br>●教師介入法のパターンと理論的背景<br>●ロールプレイ実技 | 11月 | 研究報告会のポスター作成 | ■講師介入法<br>■授業への活用方針<br>■実践への課題 |
| 5 | **研究報告会（中間発表）** | ポスターセッション方式による実践報告会（中間発表）<br>※『沖縄キャリア教育EXPO』内で一般公開 | 12月 | | ■最終レポート仕上げ（中間発表での気づきを踏まえ） |
| 6 | **まとめ・終了式** | **◆アクティブラーニングリーダーとしての心構えとまとめ**<br>**◆修了証授与** | 1月 | | |

### 参加した先生たちの声

●2月に開催された小林先生の研修に参加して、今まで自分がやっていた授業よりおもしろそうだと感じ、今年度からアクティブラーニングを採り入れています。今回の講座はでほかの先生方の実践事例などを詳しく聞くことができ、非常に参考になっています。

●科目のなかでキャリア教育をどう採り入れていくかについて以前から関心があったので参加しました。ポイントを絞って話す、時間を守るなど具体的な実践コツが理解できました。

▲講座そのものがアクティブラーニングによって行われるので、生徒側の視点も理解できる

▶「数学ではこのような課題がありますが、英語では？」など教科の枠を超えて意見交換